

本を選ぶ

高校図書館版

NO.31 2001年(平成13年)5月10日

●発行ノライブラリー・アド・サービス

本社 〒162-0822 東京都新宿区下宮比町2-28-517 TEL=03-3235-6168

ぶつく・えんど

高校生と山に登って

ここ数年、東久留米市にある中高一貫教育の私立中学、高校で年1回催される遠足登山に同行している。各学年1クラスという小さな学校で、中学、高校とも3学年が一緒に登山を行う。中学では燧ヶ岳、常念岳～蝶ヶ岳縦走、赤岳～硫黄岳縦走などを、高校では槍ヶ岳や常念岳～燕岳縦走、北岳～間ノ岳などに6月初旬から中旬の残雪期に登る、かなり本格的な登山である。

それぞれ2泊3日の日程で実施されるが、ミーティングで話しをする機会が毎回あり、山の歴史や自然の話とともに、その山を舞台にした小説やエッセイの紹介をしたりしている。

例えば、槍ヶ岳には上高地から徳沢、横尾を経て深い残雪に覆われた槍沢に登る。

上高地から横尾を過ぎて槍沢口ツチ周辺までは新緑が眩く、春の妖精たちが風に揺れる。野鳥たちの囀りは絶え間なく響き、日本猿の群れや特別天然記念物のカモシカに出会うこともある。

安曇節の一節に「槍で別れた高瀬と梓、めぐり合うのが押野崎」とあるが、槍沢は、梓川、犀川、高瀬川、千曲川、信濃川と名を変えてやがて日本海に流れ込む。槍ヶ岳への登山では、梓川沿い～槍沢と辿るが、自然、歴史、文化と様々なテーマがあり、写真集、図鑑、山岳小説、エッセイ、歴史書など、紹介する図書をセレクトするのに困るほどである。

一昨年の槍ヶ岳登山には、女性登山家の田部井淳子さんが同行された。氏の著書『エベレストママさん』とともに、『氷壁』（井上靖著）、『播隆上人』（穂苅貞雄著）、『単独行』（加藤文太郎著）、『孤高の人』（新田次郎著）、『風雪のビバーク』（松濤明著）、などを紹介した。松濤明は、北岳バットレスの完登を果たしたが、その年の暮れに槍ヶ岳北鎌尾根で遭難、先に逝った友に寄り添い、遺書を書き残して逝った。この話には、北岳、槍ヶ岳の両方に登った学生たちの心に衝撃を与えた。

一部は、私の学生時代の愛読書である。今の高校生の目に触れることは少ないと思われるが、現場での紹介により、見本として持参した本は、あつという間に学生たちのものとなった。

『西の魔女が死んだ』（梨木香歩著）に、私の好きな花のひとつであるギンリョウソウが大変印象深くえがかれている個所がある。高等部では、毎年、遠足前の足慣らしに伊豆ヶ岳から武川岳、二子山と縦走しているが、その時期、縦走路でギンリョウソウに出会うことができる。ある年の遠足でギンリョウソウの写真に本文の一節を書き添えて配布し話しをしたところ、学生たちは強い興味を示して聞いてくれた。

良い本と思い薦めても、受け手が心を閉ざしている時にはどんなに心を尽くしても受け入れてはもらえない。しかし、その堅い扉を開けるきっかけさえあれば驚くほど素直に受け入れてもらえるのも事実である。

今回紹介したような古い本でさえ、今の高校生の興味をひくことができるのだから。

(大久保清樹)

甘えも残る四年目の中堅

宮崎健太郎

この春、職場は春の椿事に見舞われました。常勤職員が40人強という小規模な学校で、職員の3分の1が入れ替わってしまったのです。職員室や事務室の雰囲気がずいぶん変わったなあという印象はあったのですが、歓送迎会でズラリと並んだ転退職者・着任者の列を見るときには春の椿事を越えてショックすら覚えました。

あの着任者の列のはじっこに緊張しながら座っていたのはついこの間だったと思っていたのですが(ちなみにその年は4人の列で、それがこれまでの平均です)、それはもう3年前のことになってしまいました。さらに、ふと気がついてみると、4年目の私は既に校内の在職年数では中堅の一員。3年目からは転勤の可能性がありますし、前任者は5年目で転勤しています。もういつ引き継ぎがあってもおかしくないという現実が初めて頭をよぎります。これまでずっと「駆け出しだから」とどこかに甘えた気分を引きずって仕事をしてきましたが、もうそれどころではありません。そんなことを思い返しつつ、あらためて司書室を眺めると、そこには除籍をしようとして書架から下げたままの本が山積みになっていたり、書名・著者名目録をとるためにコピーされた標目未記入の目録カードが百枚単位で積まれていたり。表に見えにくい仕事ほど、より多額の“不良債権”がたまっていきます。万一この春に転勤だったらどうなっていたのだらうと思うと、背筋が寒くなってきます。

ところで、この春には私にとってもう一つ椿事がありました。冷やかしてなく「どうしたら司書になれるんですか？」と聞いてくる生徒が急が増えたのです。これまでは年に一人いるかないかだったのが、今年に入ってからは既に5~6人が質問しにきています。その中には図書館の常連の子もいれば、私が紹介した本がたまたま気に入ってその作者の世界に惚れ込んだ子もいます。また、地元の公民館に併設されている図書館が年を

追って整備されていく様子を見て憧れを持った子もいます(もっともその図書館に専門職の「司書」はいないのですが)。

何にせよ、司書という仕事に彼らが魅力を感じてくれたこと、私にとっては本当にうれしいことです。なにしろ自分も人のことは言えません。「司書になりたい」と思ったきっかけは、彼らと同じように身近な学校司書や公共図書館の司書の姿を見ていて感じた思い付きだったのですから。

でも、今はそういう生徒の姿を素直に喜べる状況ではありません。進路先として司書を目指すのに、今はあまりにも大きなリスクが伴います。例えば、埼玉では昨年秋、司書の採用試験が行われませんでした。「再編」という旗印のもと、県立図書館や高校も統廃合が実施されるようです。

結局、生徒たちには「資格が取れても、今は司書の口がないよ。何年も浪人して、結局なれない可能性も高いし。それでも頑張れる覚悟はある？」と、否定的な返事を返しています。

さて、そう返事をしたあとに司書室に戻ると、そこには古い資料と目録カードの山が。生徒のレファレンスへの対応やリクエストへの迅速な対応を最優先に仕事しているので、授業利用が増えているので、など言い訳はいくらでもあります。でも司書という仕事にあこがれ、必死で就職活動をしている方に対し、その言い訳はどれだけの申し開きになるのでしょうか。さらに、もっと切実な問題として、今までのペースで仕事をしていたら仕事を雪だるま式にたまってしまいます。

幸い、今年度は図書館担当の先生が一人から二人に増え、委員会指導などの負担が少し減りそうです。たまっている仕事の処理に力を振り向けながら、表に見えない仕事をそつなく、でも確実にこなせる仕事の時間配分や方法を考えること。今年の私に課せられた課題になりそうです。

(みやざきけんたろう：埼玉県立小鹿野高校図書館)

一年に夏・春二度の書架整理

スタッフマニュアルをつくらう(7)

木下 通子

またまた新緑の季節がやってきました。オリエンテーションも終わり、やっと軌道に乗ってきた頃だと思いますが、図書館の活動は順調ですか？私はただいま6か月になった息子とやんちゃざかりの娘を抱えて奮闘中です。育児休業中でも学校には連絡をとっていて、年度末の蔵書点検は少し参加させてもらいました。その時に蔵書整理をどんな風にやっているかという話がでて、うちの学校のやり方を説明したら、産休代替の司書さんにちょっとびっくりされました。そこで、今回は蔵書整理のやり方をご紹介します。

学校司書になりたてのころ、先輩司書に「司書の仕事でいちばん大切なのは書架整理。書架整理はつい図書委員に任せてしまいがちだけれど、めんどくさくても手抜きをしないで、毎日気持ちよく本棚が使えるように自分の手で配架するように」と言われました。でも、書架整理って、めんどくさいですね。案の定私も、配架は図書委員にお任せで書架がぎゅうぎゅうになっていても見て見ぬ振りをする…なんてことをしていました。ところが利用が増えてきて、本が回転しだして、生徒から「なんか本を紹介して！」なんて言われるようになったら、仕事はぐんと忙しくなっているのに、妙に本棚の乱れが気になるようになったんです。どんな本がよく利用されていて、どの棚の本が動いているのか、この本はどこにあるのかなど、自分で書架整理をすると動向がよくつかめます。それからは、朝の書架点検が日課になりました。

一年に夏・春二度の書架整理

公共図書館だと毎朝の書架整理や定期的な館内整理日が定着していますが、学校図書館では開架の本を書庫に移したり、廃棄をすることを含めた書架整理をどれくらいしているのでしょうか？ちなみにうちの学校では大規模な書架整理は夏と春

の年に2回行っています。

夏の書架整理は、大掃除が主です。配架の乱れは直していても、本棚から本を出して本棚を拭くという作業はなかなかできないので、夏には本棚と館内の掃除を主に書架整理をしています。

作業日程は二日。期末テストの最終日と球技大会の初日をねらいます。夏休み貸出を始める前に掃除をしてしまうためです。

まず、期末テスト中に事前作業を行います。本棚を点検し、ぎゅうぎゅうの棚から本を抜いて書庫にしまう分を取り出します。以前は開架の本を減らすことよりも本棚を増やす方がいいののではないかと考えたりもしたのですが、ぜんぜん利用されない本を書架に並べて置いても仕方がないので、開架書架にはできるだけ新鮮な本が並んでいるように心がけることにしました。客観的なデータを元に書庫へ本をいれているわけではありませんが、この本は古いとか使われていないと思う本を選び、書庫行きにします。パソコンで図書データの配架場所を「書庫」に修正し、後は本を移動するのを待つだけという状態にしておきます。それから、配架の乱れを直します。本を請求記号どおりに並べて、これから購入する本をいれる書架のスペースも確保します。

この作業は一般書架の本を中心に行います。本は一般書架の他に文庫、コミック、絵本、料理&手芸、進路、参考図書、大型本、旅行ガイド、全集、テーマ別別置などに分けて配架していますが、夏の作業では余裕もなく、その本は特に書庫へはしません。

書架整理の二日間は図書委員の生徒に活躍してもらいます。図書委員には事前に二日間のうち都合のいい日を希望してもらい、どちらか必ず手伝いに来るようお願いしておきます。人数を確認して、二人一組のペアを作り、書庫へ本を運ぶ人、書架の掃除をする人に分けます。書架掃除は、本棚から本を出して、本棚を堅く絞った濡れ

雑巾で拭いて、本をきちんと配架するというのが一連の流れで、最初に指示された自分達の担当箇所が終わって司書のOKが出たら手伝い終了になります。二日目には書架拭きはすいぶん進んでいるので、床の掃除機かけ要員も何人が確保し、普段の掃除ではできないすみずみの掃除をします。ソファや動かせる本棚を全部どけての大仕事です。ここまでできてきれいさっぱり、夏休みを迎えられます。

春の書庫整理

春の書架整理は蔵書点検を兼ねて行います。うちの学校もパソコンのシステムを変えた2年前から蔵書点検をバーコードで読み込む形で行うようになりました。貸出中の本はパソコンが後でチェックしてくれるので楽チンです。カードで蔵書点検をしていたときのように人手もいらなくなりました。蔵書点検は、2月の下旬から始めます。一般入試の採点などのために生徒が自宅研修になる日が何日あるからです。何人か手伝ってくれる人がいれば別ですが、一人でぼつぼつやって、やっぱり2、3週間はかかるでしょうか。それでも、考えながらする作業ではないし、飽きたり疲れたらすぐに他の作業に切り替えられるので、バーコードを読んでいく蔵書点検に切り替えて、気持ちも楽になりました。

春の書架整理は、書庫の本の廃棄処理もあわせて行うので、図書委員に手伝ってもらう前に司書がやっておかなければならない仕事が増えます。開架の本を書庫にしまうと書庫もぎゅうぎゅうになるわけで、そのためには書庫の本の廃棄手続きも行います。いい加減なやり方ですが、開架から書庫にしまう本をまず抜いてみて、その本の分量をみて、廃棄する本の量を決めます。国史大系や東洋文庫など、普段は使われないけど絶対に取っておきたい本以外の本、たとえば、文芸書や文庫などのたぐいもとりあえずすぐに捨てずにまず書庫にしまって何年か寝かせているので、その中から年に500～800冊平均で廃棄しています。廃棄する本には消印を押す作業など必要になります。それからパソコンのデータも「除籍」に修正します。書庫にスペースができたところで、また開架の本のデータを「書庫」に変える

作業をします。

春の点検のもう一つの重要な仕事は雑誌の整理です。雑誌は年度ではなく、1月から12月を区切りに廃棄などの手続きをしているので、雑誌架の雑誌を書庫にしまうのはそんなに大変ではないのですが、休刊や廃刊になってしまった雑誌を雑誌架から抜いて雑誌架の並び順を修正したり、新年度に備えて定期購読している新刊案内の配架場所を確保したりする作業を行います。これも一人では大変なので、図書委員に手伝ってもらいます。だから、春は図書委員の作業日を三日間とっています。夏のとくと同じように書架の拭き掃除や床の掃除機かけの作業も平行して行います。図書委員に手伝ってもらう三日間は、蔵書点検のバーコード読みも中止して、生徒と一緒に作業します。その三日で人手が必要な作業をとにかく終わらせて、終わらないところは、「終わらないんだけど、手伝ってくれないかなあ」と何人かの生徒にやさしくお願いして（生徒はやさしくお願いされたとは思っていないようですが）、春休みに入る前に蔵書点検処理まで終わらせるという感じ

アメ玉を口に放り込んで

よく、図書委員に手伝ってもらって作業しているという、「うちの図書委員は全然動いてくれないから…」とおっしゃる司書の方もいるのですが、図書委員にしっかり動いてもらうポイントは、何のために何を手伝ってもらうかははっきり伝えることと、生徒の作業内容を明確にすることだと思います。書架の掃除にしろ、本は重いし手は汚れるし、めんどくさい作業はやりたくないわけです。でも、助けてほしい、司書一人ではとてもできません！と、事前の図書委員会で事情を説明し、かつ、来なかったらその分何か別の作業をしてもらうことになるのだよフッフッと少し脅迫しておくわけです。そして、作業日になったら、一人一人に雑巾とバケツを渡して、「あなたとあなたの分担はこの棚だからこういう風に作業して、ここまで終わったらおしまいね」とお願いします。「終わったらチェックして、いいかげんだったらやり直してもらうこともあるのだよ」と言ってアメ玉を口に放り込んで作業してもらう

「踊るらいぶらりあん」の由来も明らかにされています。

お品書は職場のことがテーマのらいぶらりいときどき通信、本の紹介が中心の本のときどき通信。仕事を離れた身边やペットに関する雑記帳風の通信、どのカテゴリにも属さないゴミ溜コーナー、ホームページに訪れた人が書き込むみなさんのときどき通信、最後はいろいろなところに飛べるリンクです。

お品書を味見してみました。本の紹介では、踊るらいぶらりあんさん紹介の本として、『イグアナくんのおじ まな毎日』『観光の哀しみ』『清水義範の作文教室』など22冊が紹介されています。らいぶらりあんときどき通信では、時には丁々発止だったり、時には独り相撲だったりする生徒とのやりとりが報告されています。リンクの文字をクリックすれば、主宰者と同業の高等学校の司書さん、大学図書館員、学校司書を目指している人などが立ち上げているホームページと本を探すためのものがいくつか紹介されています。リンク先をクリックして入っていくとそこでまた新たなリンク先につながっています。好奇心のおもむくまま進めば、不思議の国のアリスさながら、土壺にはまった状態になり、時が経つのを忘れてしまうというものです。

二つ目はかんちゃんのホームページです。アドレスは、<http://www.2u.biglobe.ne.jp/~k-lib/>です。

1998年10月5日から、48,100番目の訪問者になりました。自己紹介などから、主宰者が現役の高校の司書さんで、新潟県在住、4月に異動で電車通勤に変わったことなどがわかります。

そして、かんちゃんが読んだ本、印象に残った本の紹介コーナーがあり、書架室と命名されて、ざっと百冊の書名が並んでいます。並び順について、「原則として、著者名のアイオエオ順」であること、「その他」のくくりでは「著者が団体・編者のみの本、テーマ別」のものを配架していると、司書さんらしく記されています。踊るらいぶらりあんさんが紹介している書名も数冊入ってい

ます。

もう一つの特長は、図書館司書室です。ここではかんちゃんが司書になった経緯を序章にして学校司書の仕事、司書と司書教諭について、司書について知るための情報・文献ガイドと続き、「そして現在、学校司書あれこれ」と題して、かんちゃんの仕事ぶり、生徒との交流、異動に伴うてんやわんやを垣間見せています。

ときどき通信とかんちゃんのホームページ、どちらも辿っていくと主宰者のメールアドレスに辿り着くようになっていましたが、かんちゃんへの送信は戻ってきてしまいました。ときどき通信の主宰者江崎祐子さんからいただいた返信に、個人のホームページを立ち上げたところ、それが職場に知れて、守秘義務だのなんだのということから苦況に立たされた事例もないではないということがありました。ある意味では学校司書さんの置かれている状況をよく表しているのではないのでしょうか。

というのも、この度の経験でも、主宰者は学校司書の仕事にける情熱というか、この仕事は私に合ってるうというのりを発散させていますし、学校司書の仕事を多くの人に知ってもらいたい、一人職場で働いている同じ仕事をしている人と縦から横から斜めから繋がりたいという願望を持っていることがひしひしと伝わってくるのです。このようなことから、ご本人はそのつもりがなくても、広告塔のような役割を担っているように嗅ぎとられてしまうと、個人のホームページでありながら、それで済まないように思われることも予想がつくというものです。

そしてただだからこそ、横にも縦にも斜めにも結びあうきっかけとなる場を開きたいという想いも肯けるというものです。

ある点では読書と対極に近いと思われるインターネットの上で、書物について述べ、高校生に読書の楽しさや有用性を経験してほしいと望んでおられる姿を拝見するのは感慨深いものがありました。(編集部)

日本史 総合年表

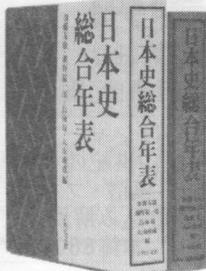
『国史大辞典』別巻

5月20日発売

高校図書館必備

12000円

『内容見本』送呈



『日本史年表』の決定版

加藤友康・瀬野精一郎 編
鳥海靖・丸山雍成 編

旧石器時代から1999年まで、政治・経済・社会・文化にわたる3万6500項目を収録。調査・史料講読に便利な工夫を凝らし、古代・中世項目には出典と当該年の『大日本史料』編・冊を表示する。豊富な付録と詳細な索引付。四六倍判・上製・函入・1116頁

吉川弘文館 〒113-0033 東京都文京区本郷7-2-8
電話03-3813-9151(代表) / 価格は税別

大きな活字で読みやすい本最新シリーズ

怪奇・ホラーワールド 全15巻

揃定価：揃本体42,000円(税別)
A5判新フランス装 平均254頁

- ①妖美の世界 ②科学の脅威
- ③呪いの恐怖 ④幽霊怪談
- ⑤魔性の生き物 ⑥恐ろしき執念
- ⑦人外魔境 ⑧日常の呪縛
- ⑨モダン・ホラー ⑩過去への幻想
- ⑪異界への入口 ⑫時の輪廻
- ⑬死者の復活 ⑭水の妖怪
- ⑮ファンタジー



20世紀日本ホラー
文学の集大成!

リブリオ出版 〒112-0012 東京都文京区大塚3-5-11住友成興小石川ビル別館3階
TEL03-3943-8885 FAX03-3943-3540
Website www.liblio.com E-mail info@liblio.com



サイエンスEネットの 親子でできる 科学実験工作

川村康文編著 1400円

待望の
第2弾

中・高の先生方が、科学の楽しさを伝えようと考え出した図解本の第2弾。卵パックのリサイクルでつくれる美しい造花、自転車発電でテレビをつける……42編のおもしろ科学実験工作を紹介。

<http://www.kamogawa.co.jp>

かもがわ出版 〒602-8119 京都市上京区堀川通出水西入
☎075(432)2868 FAX075(432)2869

鳥たちの舞うとき

市民科学者の最後のメッセージ

敬愛する宮澤賢治にならい、

市民科学者として反原発運動を推進した著者が、

死の間際に残した念願の小説。

余命半年を宣告された主人公と、

ダム建設にゆれる天楽谷の

人々や鳥たちとの交流を描く。

高木仁三郎◆著

- 定価 本体1600円+税
- 四六判上製/224頁

〒150-0046 東京都渋谷区松濤2-21-3
phone.03-3465-5251 fax.03-3465-5254 工作舎

人間と性をめぐる教育と文化の総合情報誌

SEXUALITY

季刊セクシュアリティ

2001年1月創刊(定価1500円)

No.1 1/15発行

10代の性はいま

No.2 4/15発行

“男らしさ”からの解放へ

定期購読 お問い合わせ  **エイデル研究所**

☎102-0073 千代田区九段北4-1-11 ☎03(3234)4641

シュヴァンクマイエルの博物館 -触覚芸術・オブジェ・コラージュ集

奇想天外摩訶不思議。シュールでユーモラスな
造型作品の数々を、作家自身の構成で紹介。
カラー図版300点収録!!

★

B5変型・上製カバー
168ページ
予価=本体3600円+税
ISBN4-336-04329-9

編集=くまがいマキ
造本・装訂=山田英春

国書刊行会 〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15
Tel 03-5970-7421 Fax 03-5970-7427
<http://www.kokusho.co.jp>

限りなく広がる知識の世界 辞典 600点突破!



シャーロック・ホームズ大事典

読んで楽しむ詳細な
「ホームズ百科事典」誕生

小林 司・東山あかね編 本書はシャーロックホームズの間像と物語及び19世紀のヴィクトリア王朝末期の文化・社会・風俗・ファッションに至るまで最新情報を盛り込み解説。
A 5判 960頁 本体8600円

東京堂出版

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-7
TEL.03(3233)3741 辞典目録進呈

日本史事典 藤野 保ほか4氏編 本体23000円(税別)

歴史博万華鏡 国立歴史民俗博物館監修 本体28500円(税別)

恐竜大百科事典 小島郁生監訳 本体22000円(税別)

複雑系の事典 編集委員会編 本体14000円(税別)

薬の事典 宮崎利夫・朝長文彌編 本体20000円(税別)

総合図書目録'01春あります。ご請求下さい。

朝倉書店

東京都新宿区新小川町6-29
〒162 03-3260-0141

ロバートは歴史の天使



エンツェンスベルガー 丘沢静也訳 ベストセラー『数の悪魔』のロバート少年が帰ってきた! 電卓など七つ道具をポケットに、七つの時代、七つの場所へタイムスリップ。息もつかせぬ歴史ファンタジー。 2310円(税込)

晶文社

東京都千代田区外神田2-1-12
電話03(3255)4501



こんな本を待っていた! ★日刊工業新聞第16回「技術・科学図書文化賞」受賞!

—中学生からの全方位独学法—

虚数の情緒

吉田 武(よしだ・たけし) 著
工学博士(数理工学専攻)

この本は人類文化の全体的把握を目指す科目分類に拘らない「独習書」である。歴史、文化、科学など多くの分野が、虚数を軸に悠然たる筆致で書かれている。また人生の「参考書」ともなるよう、様々な分野の天才達を縦横に配した。漢字、電卓の積極活用なども他に例の無い独特のものである。

A 5判・上製本・1032頁/定価(本体4300円+税)
ISBN 4-486-01485-5 C3041 分野/自然科学(数学)

東海大学出版会

〒151-0063 東京都渋谷区富ヶ谷2-28-4
TEL.03-5478-0891 FAX.03-5478-0870

URL <http://www.press.tokai.ac.jp/> E-mail:webmaster@press.tokai.ac.jp

『刀水』No.5

■対談■

原田勝正—小山 徹
「技術」の目から
鉄道を語る



原田勝正著「日本鉄道史—技術と人間」刊行(5月)に寄せて特別対談! 鉄道技術の導入と発展を、「システムとポリシー」で明らかにする(無料)

発売中
好評

沖縄の「反戦ばあちゃん」

松田カメ口述生活史
平松幸三編 四六上製・201頁・本体2000円

東京都千代田区西神田2-4-1
Tel.03-3261-6190 Fax.3261-2234

刀水書房

日本の水文化

水をいかした暮らしとまちづくり
三和総合研究所編/編集協力国土交通省土地・水資源局水資源部/その再生と保存、そして地域活性化への道を具体例をもとに考察。 二〇〇〇円

まるごとガイド
シリーズ好評既刊

資格のとり方・しごとのすべて

A 5/美装

- ① 社会福祉士まるごとガイド
- ② 介護福祉士まるごとガイド
- ③ ホームヘルパーまるごとガイド
- ④ 保育士まるごとガイド
- ⑤ 理学療法士まるごとガイド
- ⑥ 作業療法士まるごとガイド

1500 1500 1200 1200 1200 1200

⑦ **看護婦・士まるごとガイド**
日本看護協会監修●資格のとり方・しごとのすべて 人の命と健康を守る分野で活躍する専門職を現場取材を豊富に取り入れ解説する。一五〇〇円

好評シリーズ待望の最新巻 ついに刊行!

ミネルヴァ書房

京都府山科区日ノ岡塚谷町1
TEL.075-581-0296 ※価格は税別